



▲懐かしい木製遊具で遊ぶ子どもたち（昭和27年）。右手前の建物が当時の中宮保育所。



今

◀3代目となる現在のの中宮保育所。ジャンクルジムは子どもたちに人気の遊具です。



▲昭和24年の開設当時に建っていた場所。現在はマンションに姿を変えています。右側のマンション（北端部分）が中宮保育所でした。

戦後復興のなか地域とともに子どもを育んだ

中宮保育所

中宮保育所は昭和24年5月、枚方初の公立常設保育所として旧陸軍禁野火薬庫の一部を転用する形で、現在の中宮北町に開設されました。戦後の混乱期だった当時、戦争で父親を失った母子家庭を支援するためにも保育所の建設は急務となっていました。開設時の建物は弾薬を運ぶために津田駅まで敷かれていた軍用鉄道の駅舎をそのまま利用していたことから、窓は高く保育にはあまり適していなかったようです。

定員は3歳から5歳児までの100人と決まっていたのですが、時にはそれ以下の年齢の子どもも面倒を見ることがありました。とにかく困っている人の子どもはすべて引き受けようという風潮でした。昭和30年代から保育士として働いていた女性は、先輩保育士から開設当時の大変だった様子をよく聞いていました。「戦後の大変な時期だったので人手や物資は不足しており、保育士たちはみんな休む暇なく働いていました。給食用の野菜を八百屋さんや農家に差し入れしてもらおうなど、地域に支えられながら必死に運営していたそうです」と当時の様子を語ります。大変な時代でしたが、保育士たちは子どもたちが楽しそうに遊んだり歌ったりする元気な姿を励みに頑張っていました。

中宮保育所は昭和33年に中宮公園の南側に移転し、昭和49年には現在の中宮山戸町に移りました。鉄骨平屋建てで遊戯室や園庭、子ども用のプールなどを備える現在の施設には0歳から5歳児までの103人が通っており、今も昔と変わらず遊ぶ子どもたちの元気な声が響き渡っています。

（平成23年5月号）